

2023年1月26日

2023年1～3月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

生産は回復持続するが 消費意欲減退で内需型産業は低迷

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、12月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

現況

- 県内産業の現況（2022年10～12月期）は、『好調』が「工作機械」の1業種、『順調』が「二輪車部品」「情報サービス」の2業種、『普通』が「製紙」「民生用電器部品」「自動車部品」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」の7業種となった。
- 『低調』は「食品・飲料」「建設」「住宅」「大型小売店」「外食」の5業種で、『不調』の業種はなかった。

今後の見通し

- 2023年1～3月期の見通しについては、『好調』1業種と『順調』2業種は前期と変わらず、「建設」が『低調』から一段階上昇して『普通』が8業種となる。
- 『低調』は「食品・飲料」「住宅」「大型小売店」「外食」の4業種で、『不調』の業種はない見通し。
- 主力の自動車・二輪車部品や電器部品などの製造業では、比較的堅調な需要に支えられ、供給制約の改善により生産は回復傾向が続くとともに、内外の設備投資需要から工作機械や情報サービスも順調に推移する見通し。
- 一方で、食料費や光熱費といった生活必需的な家計支出の増加による消費意欲の減退が強く懸念されるとともに、コロナ感染拡大への不安が消費行動の抑制につながる可能性も無視できず、小売、外食、住宅などの内需型産業では低迷を余儀なくされる模様。

業種	業界天気 現況 (10-12月)	見通し (1-3月)
製紙		→
食品・飲料		→
工作機械		→
民生用電器部品		→
自動車部品		→
二輪車部品		→
建設		→
住宅		→
大型小売店		→
自動車販売		→
物流		→
情報サービス		→
人材派遣		→
観光・レジャー		→
外食		→

※本件のお問合せ先 主任研究員 大石 彰男

生産は回復持続するが、消費意欲減退で内需型産業は低迷

業界景気の現況（2022年10～12月期）

県内産業の現況（2022年10～12月期）は、『好調』が「工作機械」の1業種、『順調』が「二輪車部品」「情報サービス」の2業種、『普通』が「製紙」「民生用電器部品」「自動車部品」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」の7業種、『低調』が「食品・飲料」「建設」「住宅」「大型小売店」「外食」の5業種で、『不調』の業種はなかった。

業界景気の見通し（2023年1～3月期）

1～3月期の見通しについては、『好調』1業種と『順調』2業種は前期と変わらず、「建設」が『低調』から一段階上昇して『普通』が8業種となる。『低調』は4業種で、『不調』の業種はない見通し。主力の自動車・二輪車部品や電器部品などの製造業では、比較的堅調な需要に支えられ、供給制約の改善により生産は回復傾向が続くとともに、内外の設備投資需要から工作機械や情報サービスも順調に推移しそう。一方で、食料費や光熱費といった生活必需的な家計支出の増加による消費意欲の減退が強く懸念されるとともに、コロナ感染拡大への不安が消費行動の抑制につながる可能性も無視できず、小売、外食、住宅などの内需型産業では低迷を余儀なくされる模様である。

業種ごとにみると、製造業では、設備需要が底堅く堅調な受注環境が続く「**工作機械**」が『好調』を維持。需要が衰えずサプライチェーンも正常化に向かう「**二輪車部品**」が『順調』のまま推移する。トイレ紙の業務用需要の本格回復が見込まれる「**製紙**」や、業務用エアコンの受注が堅調で部品調達の制約が緩和される「**民生用電器部品**」、半導体調達に不安はあるが前年比1割程度の増産を見込む「**自動車部品**」は『普通』を維持するなど、生産活動は総じて安定・拡大傾向が持続する見通し。一方、「**食品・飲料**」は価格改定の影響で需要減少の懸念があり、『低調』が続く見通し。






非製造業では、民間のIT投資や行政のデジタル化需要が底堅い「**情報サービス**」は『順調』に推移。納車期間長期化の改善を見込む「**自動車販売**」や、輸送用機器のほか消費関連の輸送ニーズが底堅い「**物流**」、自治体向けの物価対策関連案件が増えるとみられる「**人材派遣**」は『普通』のまま推移する見込み。また、「**建設**」は災害復旧工事の予算執行や民間工事の増加が見込まれ『低調』から『普通』へ改善する模様。

一方、物価上昇やコロナ感染拡大の影響が懸念される中、全国旅行支援の延長がプラス要因となる「**観光・レジャー**」は『普通』を維持するが、光熱費等のコスト上昇で収益の悪化が予想される「**外食**」や、住宅価格の高止まりや固定金利の上昇がマイナス要因となる「**住宅**」、生活防衛意識・節約志向の強まりで販売量の減少が懸念される「**大型小売店**」は『低調』から抜け出せない見込みである。

2023年1～3月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業種	業界天気		売上高 (前年同期比伸び率)	主要産業の見通し
	現況 (10-12月)	見通し (1-3月)		
製紙		→ 	➔	生産量は回復基調だが、原燃料価格高騰が収益を圧迫
食品・飲料		→ 	➔	価格改定の影響で需要減少、収益も悪化見通し
工作機械		→ 	➔	受注額は前年割れとなるも、設備需要は底堅く高水準を維持
民生用電器部品		→ 	➔	部品調達の制約が緩和、生産は安定して推移する見込み
自動車部品		→ 	➔	部品メーカーの生産量は前年を上回るも、コロナ前には届かず
二輪車部品		→ 	➔	サプライチェーンは正常化に向かっており、生産量は前年を上回る
建設		→ 	➔	公共工事は補正予算の年度内執行に期待、民間工事も増加見通し
住宅		→ 	➔	物価高などで購入希望者のマインドが低迷、買い控え傾向が続く
大型小売店		→ 	➔	物価上昇で生活防衛意識が強まり、販売額は前年をやや下回る
自動車販売		→ 	➔	引き続き需要は堅調、前年を上回る見通し
物流		→ 	➔	消費関連が底堅く推移、輸送量は前年水準をやや上回る
情報サービス		→ 	➔	旺盛なデジタル化需要を取り込み、売上高は好調に推移
人材派遣		→ 	➔	求人、登録者ともに動きが少なく、横ばいで推移する見通し
観光・レジャー		→ 	➔	旅行支援の延長はプラスだが、家計の節約志向の高まりを懸念
外食		→ 	➔	売上は前年を上回るも、光熱費等のコスト上昇で収益は悪化

表の見方

業界天気				売上高	
	好調		低調	➔	非常に増加(+10%以上)
	順調		不調	➔	増加(+3~+9%)
	普通			➔	横ばい(+2~△2%)
				➔	減少(△3~△9%)
				➔	非常に減少(△10%以上)

静岡県内主要産業四半期見通し調査「現況」推移

年次	2020年				2021年				2022年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV (今回調査)
対象月 (○は調査月)	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫
全業種の 平均階級値	2.30	1.67	1.67	1.87	2.47	2.53	2.40	2.60	2.67	2.53	2.80	2.93
好調：5												
順調：4												
普通：3												
低調：2												
不調：1												
業 種 数	好調 ☀️	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1
	順調 ☁️	2	1	0	0	2	3	2	1	2	1	2
	普通 ☁️	5	3	2	3	5	4	4	5	3	3	7
	低調 ☁️	10	1	2	7	6	6	7	7	9	10	7
	不調 ☁️	3	10	10	5	2	2	2	1	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(12月調査であれば10~12月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(12月調査であれば1~3月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。
調査時点…2022年12月上旬
回答企業…県内主要15業種(180社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、15業種の平均値。
(2020年1~3月期までは20業種の平均値)

各業種および表の見方

製 紙

生産量は回復基調だが、原燃料価格高騰が収益を圧迫

【現況】
☁️

↓

【見通し】
☁️

【10-12月期】 家庭紙の生産量は、主力のトイレ紙で業務用需要が回復し生産に制約が緩和された。段原紙は需要増で前年並み、白板紙は土産物向け等が好調で前年を上回った。

【1-3月期】 家庭紙は、低迷していたトイレ紙の業務用需要が本格回復し生産量も前年を上回る見通し。ただし、古紙不足で採算は悪化する見通し。メーカー各社は採算確保のため、段原紙は需要が底堅いほか、白板紙も人流の増加で好調に推移し、ともに好調だった前年水準を確保する見通し。


国内紙・板紙生産量
(前年比)
資料：経済産業省

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	カ月
89~80%	需要超過	過少	上昇	上昇	
79~70%	均衡	適正	横ばい	横ばい	
69~60%	供給超過	過多	下降	下降	
59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	

主要業種景況見通し


製紙 生産量は回復基調だが、原燃料価格高騰が収益を圧迫

【現況】



↓

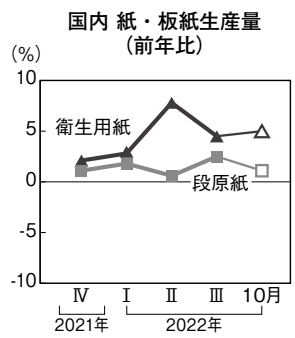
【見通し】



【10-12月期】 家庭紙の生産量は、主力のトイレ紙で業務用需要が回復し、前年を上回った。ただし、古紙不足で生産に制約を受けたほか、原燃料価格の高騰で採算は悪化した。段原紙は、食品向けや通販向けが堅調で前年並み、白板紙は土産物向け等が好調で前年を上回った。

【1-3月期】 家庭紙は、低迷していたトイレ紙の業務用需要が本格回復し、生産量は前年を上回る見通し。ただし、古紙不足が続き大幅な増産は難しい状況。メーカー各社は採算確保のため再値上げを実施予定。段原紙は需要が底堅いほか、白板紙も人流の増加で好調に推移し、ともに好調だった前年水準を確保する見通し。

国内紙・板紙生産量 (前年比)




資料：経済産業省

前年同期比	10-12月期比	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
→	→	90%以上	均衡	適正	上昇	上昇	0.1~1.0ヵ月

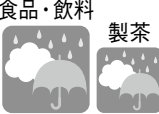
食品・飲料/製茶 価格改定の影響で需要減少、収益も悪化見通し

【現況】



↓

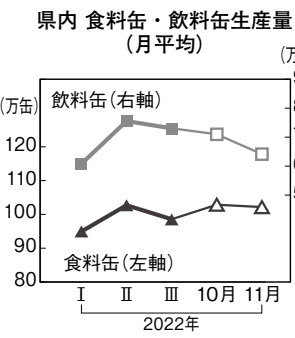
【見通し】



【10-12月期】 **食品・飲料**：県内食料缶メーカーの売上高は、価格改定による需要減が響き前年を下回った。収益面では、原燃料価格の高騰により採算が悪化した。飲料缶類の生産量は、低調だった前年を上回った模様。**製茶**：製茶問屋の売上高は、前年をやや下回った模様。

【1-3月期】 **食品・飲料**：県内食料缶メーカーの売上高は、価格改定の影響で引き続き需要が減少し、前年を下回る見通し。原燃料価格も上昇基調は変わらず、収益は悪化する模様。飲料缶類の生産量は、小型缶を中心に需要の回復が期待され、前年をやや上回る見通し。**製茶**：製茶問屋の売上高は、前年をやや下回る見通し。

県内食料缶・飲料缶生産量 (月平均)




資料：(一社)静岡缶詰協会

前年同期比	10-12月期比	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
→	→	89~80%	均衡	適正	上昇	上昇	0.1~1.0ヵ月


工作機械 受注額は前年割れとなるも、設備需要は底堅く高水準を維持

【現況】



↓

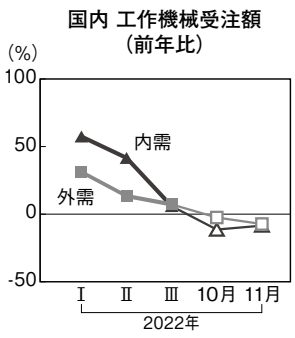
【見通し】



【10-12月期】 全国および県内の受注額は、前年をやや下回った模様。主力の外需は中国向けがゼロコロナ政策で減速、米国向けも弱含んだ。内需も発注を控える動きがみられたが、省人化やEV化関連の設備需要は国内外とも底堅く、受注総額は高水準を維持した。

【1-3月期】 全国および県内の受注額は、前年をやや下回る見通し。昨年は3月に単月で過去2番目の受注額となるなど活況で、前年実績の確保は難しい。海外経済の先行き不透明感が強いが、中国がゼロコロナ政策終了へ舵を切ったことは好材料。内需もメインの自動車産業で持ち直しが期待され、堅調な受注環境が続くそう。

国内工作機械受注額 (前年比)



資料：(一社)日本工作機械工業会

前年同期比	10-12月期比	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
→	→	90%以上	需要超過	過少	上昇	横ばい	1.0~15.0ヵ月

民生用電器部品

部品調達の制約が緩和、生産は安定して推移する見込み

【現況】



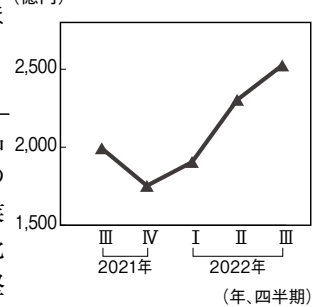
【見通し】



【10-12月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年を+5~9%上回った。上海の都市封鎖による部品調達難で、本来夏前に集中する生産が平準化された影響のほか、中国の情勢不安などカントリーリスクの高まりで、在庫を積み増す動きがあった模様。

【1-3月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、部品在庫の積み増しや国内生産への転換により、部品調達の制約が緩和されたことで、前年をやや上回る見通し。業務用エアコンは受注が堅調に推移し、出荷台数は前年比横ばいの見通し。冷蔵庫も大容量モデルの需要が底堅く、前年並みの生産を確保できるとみられる。

国内 家庭用電気機器出荷額 (月平均)



資料：経済産業省

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	需要超過	適正	上昇	上昇	1.0~3.0ヵ月

自動車部品

部品メーカーの生産量は前年を上回るも、コロナ前には届かず

【現況】



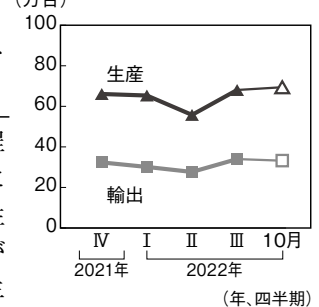
【見通し】



【10-12月期】全国の自動車生産台数は、前年実績を+1割程度上回ったが、コロナ前の水準には届かなかった模様。懸案だった部品調達環境は改善が続き、内外需ともに前年比増加した。県内部品メーカーの生産量も前年を上回ったが、コロナ前には届かなかった。

【1-3月期】全国の自動車生産台数は、前年を+1割程度上回る見通し。ただし、半導体など一部の部品調達については確実な目途がついておらず、下振れする可能性もある。また、中国のゼロコロナ政策撤廃により感染が急拡大していることも懸念材料。県内部品メーカーの生産量は前年を上回るが、コロナ前には至らない模様。

国内 自動車生産・輸出台数 (月平均)



資料：(一社)日本自動車工業会

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	需要超過	適正	上昇	横ばい	0.5~1.5ヵ月

二輪車部品

サプライチェーンは正常化に向かっており、生産量は前年を上回る

【現況】



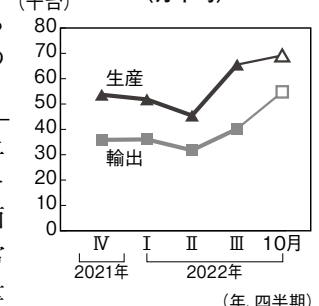
【見通し】



【10-12月期】全国の完成車生産台数は、前年を大きく上回って推移した模様。旺盛な需要が依然として継続していることに加え、半導体不足などに伴う生産調整も落ち着き始めている。こうした状況下、県内部品メーカーの受注量も前年を上回ったとみられる。

【1-3月期】全国の完成車生産台数は、前年を大きく上回って推移する見通し。需要は衰えず、完成車メーカーは生産量の拡大を計画している。半導体不足など生産面の制約は解消に向かっており、サプライチェーンの正常化も期待される。そのため、県内部品メーカーの受注量も前年を上回って推移する見込み。

国内 二輪車生産・輸出台数 (月平均)



資料：(一社)日本自動車工業会

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	需要超過	適正	上昇	横ばい	0.5~1.5ヵ月

建設

公共工事は補正予算の年度内執行に期待、民間工事も増加見通し

【現況】

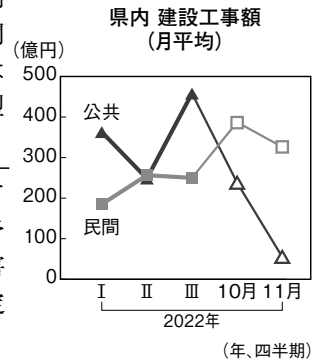


【見通し】



【10-12月期】県内の公共工事契約高は、中部や東部で橋梁工事の大型契約があった前年を下回った模様。市町関係で配水管更新工事が複数あったが、国関係や県関係はともに低調だった。民間の工事費予定額は、中部で大型商業施設の着工があり、前年を上回った。

【1-3月期】県内の公共工事契約高は、前年を上回って推移する見通し。国関係と県関係で契約が遅れていた予算の消化に加え、県が22年度補正予算に組み込んだ災害復旧費の年度内の執行が期待される。民間の工事費予定額は、西部を中心に物流施設への設備投資が見込まれ、前年をやや上回って推移する見通し。



資料：国土交通省、建通新聞社

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	完成工事に在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
89~80%	需要超過	適正	上昇	横ばい	4.0~11.0ヵ月

住宅

物価高などで購入希望者のマインドが低迷、買い控え傾向が続く

【現況】

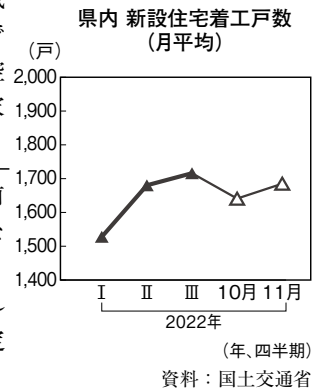


【見通し】



【10-12月期】県内の新設住宅着工戸数は、持家の大幅減を受けて、全体でも前年を下回った模様。円安の影響で資材価格が高止まり、住宅価格が上昇し、顧客の買い控え傾向が強まった。地域別にみると、中部と西部で持家が大幅に減少した。

【1-3月期】県内の新設住宅着工戸数は、低調だった前年並みで推移する見通し。物価高による家計への圧迫などで購入希望者のマインドが低迷していることに加え、住宅価格の高止まりもあり、買い控えが続くと予想される。また、大手銀行を中心に1月から住宅ローンの固定金利が上昇していることも、押し下げ要因となりそう。



資料：国土交通省

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	完成工事に在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
79~70%	均衡	適正	横ばい	上昇	1.0~7.0ヵ月

大型小売店

物価上昇で生活防衛意識が強まり、販売額は前年をやや下回る

【現況】

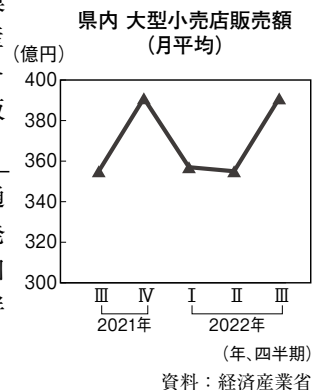


【見通し】



【10-12月期】県内の総販売額は前年並みで推移した模様。百貨店は、主力の衣料品や化粧品などに加えて、物産展の売上も伸び、前年をやや上回った。一方、総合スーパーは、物価高による消費者の生活防衛意識の強まりで販売数量が伸び悩み、販売額は前年をやや下回った。

【1-3月期】県内の総販売額は前年をやや下回る見通し。百貨店は前年1~3月にまん延防止等重点措置が発出され、来客数が低迷していた反動で、前年をやや上回る見通し。一方、総合スーパーの販売額は、物価高に伴う節約志向の強まりで販売量の減少が見込まれ、巣ごもり消費が旺盛だった前年には届かないとみられる。



資料：経済産業省

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
-	供給超過	-	上昇	上昇	-

自動車販売 引き続き需要は堅調、前年を上回る見通し

【現況】

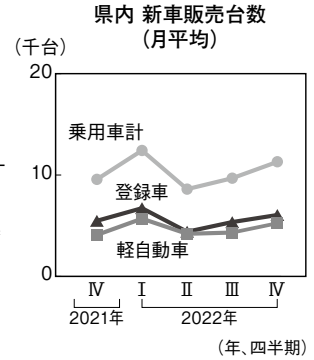


【見通し】



【10-12月期】 県内の新車販売台数は、前年比+18.0%と大きく増加した。ただし、前年は半導体不足などの影響を大きく受け、販売台数が減少した時期であり、コロナ禍前の水準には届かなかった。生産面の懸念もぬぐえず、本格的な回復には至っていない。

【1-3月期】 県内の新車販売台数は、前年を上回って推移する見通し。納車期間の長期化解消は未だに見込めないものの、最悪期は脱しそう。需要は旺盛であり、1年の総決算となる3月の納車に間に合わないケースも多くなりそうだが、前年よりは状況が改善する見込み。



資料：(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部
(一社)全国軽自動車協会連合会静岡事務所

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	需要超過	過少	横ばい	横ばい	3.0~6.0ヵ月

物流 消費関連が底堅く推移、輸送量は前年水準をやや上回る

【現況】

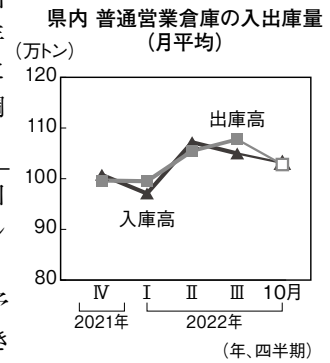


【見通し】



【10-12月期】 県内のトラック輸送量は、前年をやや上回る水準で推移したとみられる。主力の輸送用機器は前年並みで推移した一方、紙・パルプや食料品などが堅調に推移した模様。普通倉庫の入出庫高は、電気機械や鉄鋼などが伸長し、前年を+10%程度上回った模様。

【1-3月期】 県内のトラック輸送量は、前年をやや上回る水準で推移する見通し。輸送用機器のほか、紙・パルプや食品などの消費関連が底堅く推移するとみられる。一方、燃料価格や電気代の高止まりが収益を圧迫すると予想される。普通倉庫の入出庫高は、年度末にかけて荷動きに期待がかけられ、前年並みの水準は確保できる模様。



資料：静岡県倉庫協会

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	燃料価格	サービス単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	横ばい	—

情報サービス 旺盛なデジタル化需要を取り込み、売上高は好調に推移

【現況】

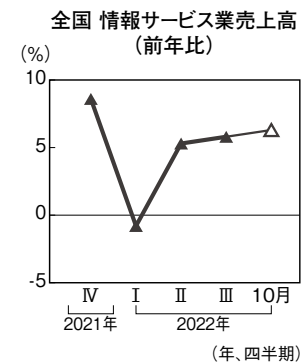


【見通し】



【10-12月期】 全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移した模様。ユーザー企業の事業活動が復調し、ソフトウェア開発案件が増加。コスト高の影響を受けて一部プロジェクトで中止や延期などもみられたが、全体としては堅調に推移した。

【1-3月期】 全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移する見通し。民間はあらゆる業種でIT投資意欲が旺盛で、行政もデジタル化需要が底堅く、広く受注の積み上げが期待される。一方、人材不足で新規案件に対応しきれない事業者も多く、売上拡大には人手確保が課題となる。



資料：経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス価格	受注残
90%以上	需要超過	—	—	横ばい	1.0~10.0ヵ月

人材派遣 求人、登録者ともに動きが少なく、横ばいで推移する見通し

【現況】



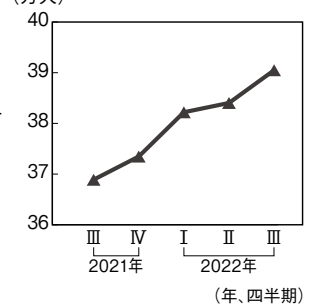
【見通し】



【10-12月期】 県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をわずかに上回った。通販などの物流業が堅調に推移したほか、物価高騰支援補助金関連の自治体向け派遣が発生した。一方で、コロナ禍関連の自治体向け派遣縮小が押下げ要因となった。

【1-3月期】 県内の派遣社員の実稼働者総数は、横ばいで推移する見通し。製造業は、半導体不足などで生産を増やせず、新たな派遣人材の投入は見込みにくい。事務職は、求人数が例年よりも少なくなっている模様。また、自治体向け派遣は、コロナ関連が縮小する一方、物価高騰支援補助金関連案件が増え、前年並みの水準は確保する見通し。

全国 派遣社員の実稼働者数 (月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	派遣原価	派遣単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	上昇	—

観光・レジャー 旅行支援の延長はプラスだが、家計の節約志向の高まりを懸念

【現況】



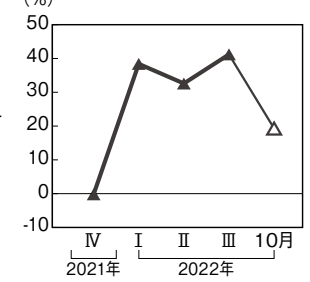
【見通し】



【10-12月期】 県内主要旅館の総売上高は、前年をやや上回り、コロナ前の水準に届いた施設も出た模様。県民割と全国旅行支援が切れ間なく実施され、多くの宿泊客を集めた。インバウンドは、水際対策が緩和されたものの県内で主力の中国からの訪日客があまり戻っていない。

【1-3月期】 県内主要旅館の総売上高は、全国旅行支援が延長されたことから前年をやや上回る見込み。コロナ感染者の増加による旅行自粛や、物価高の影響で旅行費用を捻出できる余地が縮小している点は心配だが、再びマイクロツーリズムに注目が集まるとみられ、県内を訪れる観光客は底堅い推移をみせる模様。

県内 宿泊者数 (前年比)



資料：観光庁

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス単価	受注残
79~70%	供給超過	—	上昇	上昇	—

外食 売上は前年を上回るも、光熱費等のコスト上昇で収益は悪化

【現況】



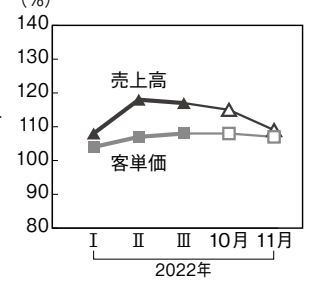
【見通し】



【10-12月期】 主要外食店の売上高は、低水準だった前年実績を上回った。イベントの再開などに伴い外出機会が増えたことで、家族客を中心に来客数、売上とも回復した。ただし、居酒屋では忘年会などの法人需要が回復せず、コロナ前の水準には及ばなかった。

【1-3月期】 主要外食店の売上高は、低水準だった前年をやや上回る見通し。イベント再開などにより来客数が増加するとみられるが、コロナ感染拡大や物価上昇による消費マインドの冷え込みが懸念され、回復度は限定的になりそう。また、食料品価格や光熱費の上昇に伴うコスト増加により、収益は悪化する見通し。

全国 外食売上高・客単価 (前年比)



資料：(一社)日本フードサービス協会

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	販売単価	受注残
—	供給超過	—	上昇	上昇	—

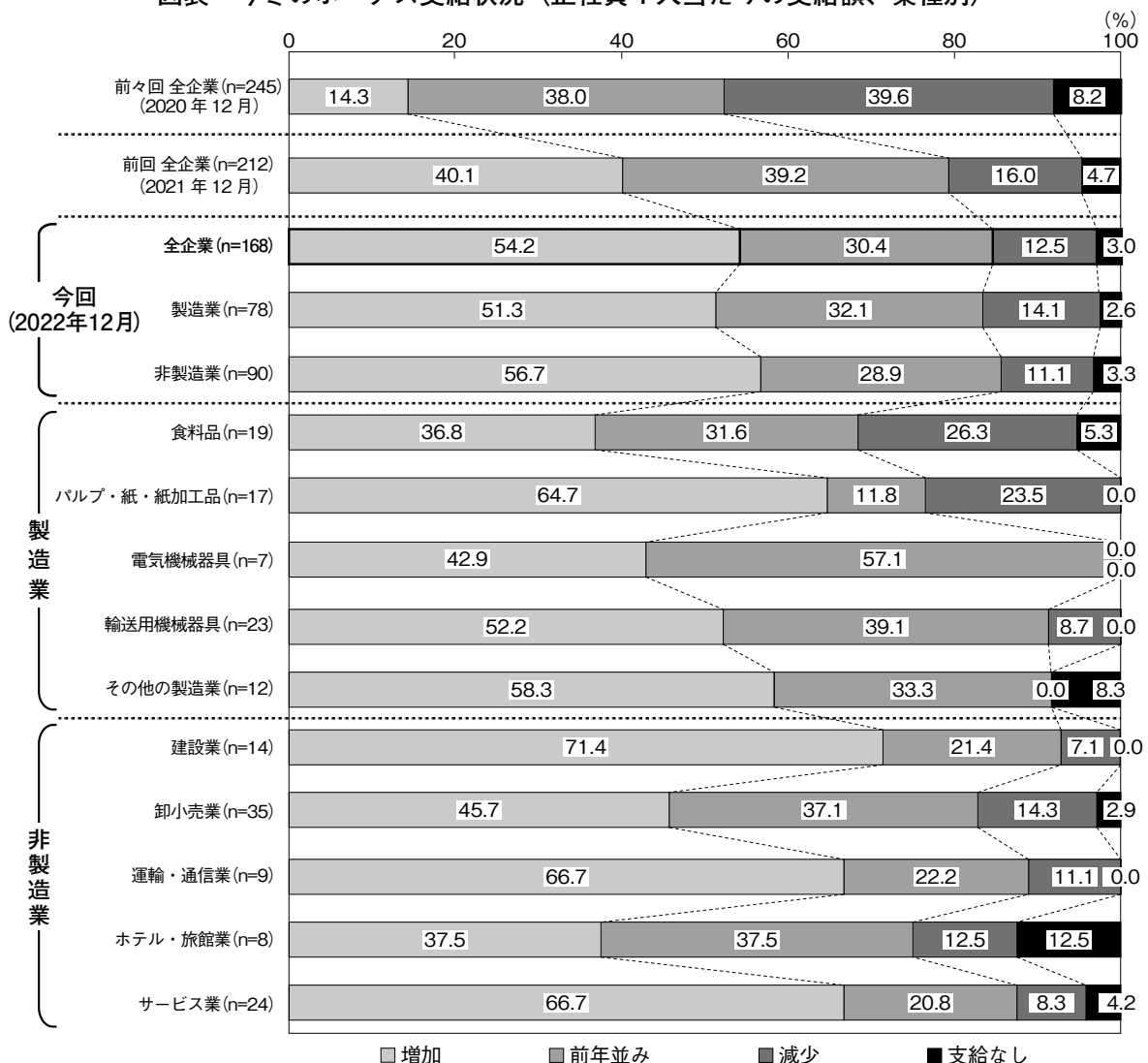
特別調査 冬のボーナス支給状況

冬のボーナスは回復基調を維持、“増加”回答が半数超えの業種が多数

県内企業に、今冬のボーナス支給について質問したところ、前年より「増加」させると回答した企業が54.2%と、前年調査（2021年12月、40.1%）比+14.1ポイント増えた一方、「減少」させるとの回答が12.5%と、前年調査（同、16.0%）比△3.5ポイント減少し、多くの業種において回復基調を維持した（図表）。

業種別にみると、製造業では値上げにより需要が弱まった“食料品”で「減少」と回答する企業が2割以上を占めたが、主力のトイレ紙で需要が回復した“パルプ・紙・紙加工品”では「増加」との回答が6割を超えた。非製造業では、民間の建設投資が多くみられた“建設業”で「増加」との回答が7割以上を占め、トラック輸送量が堅調な“運輸・通信業”やデジタル化需要が旺盛な“サービス業”でも6割を超える業種が多くみられた。

図表 今冬のボーナス支給状況（正社員1人当たりの支給額、業種別）



調査要領：調査時点2022年12月、調査対象企業590社、回答社数168社、有効回答率28.5%